

社会福祉援助技術現場実習指導

~20◆

科目コード●CP5132

担当教員●阿部一彦・高橋誠一・田中治和・三浦剛・山川敏久
君島昌志・中里仁・佐藤哲夫・佐々木裕彦
川口正義・竹之内章代・佐藤博彦ほか多数

2 単位

SR

4 年

※平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度以降に入学した方は、履修することはできません。

※事前指導①②のスクーリングを欠席した場合、社会福祉援助技術現場実習の受講はできません。

※事後指導のスクーリングを欠席した場合、社会福祉士国家試験受験資格を取得できません。

※今後の実習受け入れ状況などにより、ここに記載の内容・日程を変更する場合があります。『実習の手引き』や『With』でご案内します。

科目の内容

これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確化・自己理解を深める場であり、あわせて福祉専門職としての倫理観を理解する機会となります。

- 1) 事前指導①② 実習計画の作成と事前準備（実習の心構え、対人援助・援助過程等の確認、記録作成）。
- 2) 事後指導 実習体験の意識化・客観化・内面化の作業、抽象化・体系化できる能力の涵養^{かんよう}に努める。

到達目標

- 1) 実習をおこなう施設・機関等を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的データ等を示しながら説明することができる。
- 2) 実習をおこなう施設・機関等の根拠法、機能、業務内容について説明できる。
- 3) 実習をおこなう施設・機関等においておこなわれている関連業務の内容や他職種との役割等について説明できる。
- 4) 「実習計画案」を作成することができる。
- 5) プライバシー保護と守秘義務について法的基準や方法の説明ができる。

- 6) 実習記録の記録内容を理解し、実際に記録できる。
- 7) 実習施設・機関業務、周辺社会資源について具体的に説明できる。
- 8) 実習課題を整理し、専門職としての今後の課題を説明できる。
- 9) 援助技術理論に沿って具体的な社会福祉士像をつくり、他者に伝えることができる。

教科書

- 1) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』東北福祉大学（演習Ⅰ・Ⅱ受講者に配付）
- 2) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第2分冊）』東北福祉大学（実習申込者に配付）
- 3) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』東北福祉大学（実習申込者に配付）
- 4) 白澤政和・中谷陽明・長谷川匡俊・上野谷加代子編『社会福祉士相談援助実習（第2版）』中央法規出版、2014年

（最近の教科書変更時期）2014年4月

在宅学習15のポイント

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』『社会福祉援助技術実習指導A・B』参照

レポート課題

課題 1	<p>事前①スクーリング 受講前の課題</p> <p>(1) 『実習の手引き 第1分冊』巻末の「様式6-1～4 実習計画案（下書き用）」を作成する（鉛筆書き）＝コピー1部（A4サイズ、両面コピー不可）を締切日必着で通信教育部まで送付してください。</p> <p>※ 返信封筒を同封（定形封筒なら92円切手貼付・あて先明記）。</p> <p>※ 提出締切日は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照。</p> <p>(2) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』（鉛筆書き）の「事前訪問までの準備」の部分をすべて完成させる（「事前訪問の主な課題」の部分は記入できる範囲で記入する）＝事前①スクーリング時に持参。完成していない場合、または内容不十分な場合は、スクーリングが不合格となり、次年度の実習は受講できません。</p>
課題 2	<p>事前①スクーリング 受講後の課題</p> <p>(1) 『実習の手引き 第1分冊』巻末の「様式7-1～6 実習計画書」を完成させる＝実習開始日の1カ月前必着でコピー2部を通信教育部、コピー1部を実習先まで送付してください。</p> <p>(2) 実習先への事前訪問後、『社会福祉援助技術実習 課題ノート』の「事前訪問学習の主な課題」の部分ほかすべてを完成させる＝実習先に持参し活用したうえで事後指導スクーリング時に持参してください。</p>

課題 3

実習後、事後指導スクーリング受講前の課題

- (1) 実習事後レポート：4,000字程度＝締切日必着で通信教育部まで送付してください。
- ※ 提出締切日は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照。
- (2) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』完成させたもの＝事後指導スクーリングの際に持参してください。

アドバイス

主体的に取り組んでください。また、教科書は必ず熟読してください。実習に関する上記「課題学習」の内容や流れの詳細は、下記、および実習係から配付される書類やスクーリング時の指示に従ってください。

◆実習指導スクーリング 受講条件・申込方法

受講条件

実習申込受理判定に合格していること。

スクーリング申込方法

実習申込が受理された後に大学から送られる申込用紙を提出。

※受講条件および申込方法の詳細は、「演習Ⅰ」スクーリングで配付の『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』を参照。

スクーリング開講予定

※詳細は『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。

スクーリング講義概要

『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。

単位認定

(1)事前指導①②スクーリング+(2)実習計画案+(3)実習+(4)『社会福祉援助技術現場実習・課題ノート』+(5)実習記録+(6)事後レポート+(7)事後指導スクーリングにより評価を行います。単位認定通知は、事後スクーリング受講から1カ月程度で書面で通知します。

参考図書

『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』『社会福祉援助技術実習指導 A』の「参考図書」参照。